

ニホンザル管理の基本的な考え方

●地域主体の被害対策

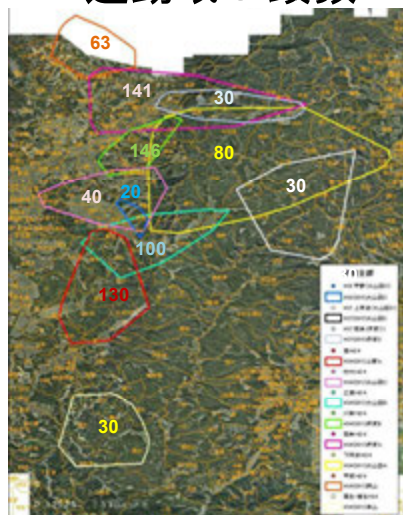
↑ 両輪で進める。
課題はそれを「誰が・どう」担うか

●群れを単位とした頭数等の管理

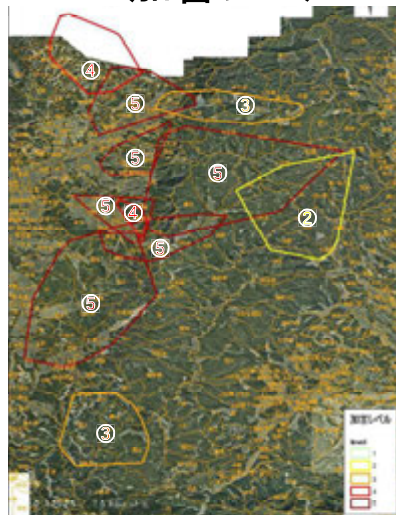
- ・多頭群の頭数削減
- ・空間的に行き場のない群れの除去
- ・悪質個体の除去

計画と群れの捕獲

遊動域 & 頭数



加害レベル



・加害レベル高
・行き場がない
＝全頭捕獲

・加害レベル高
・行き場はある
・多すぎる
＝部分捕獲

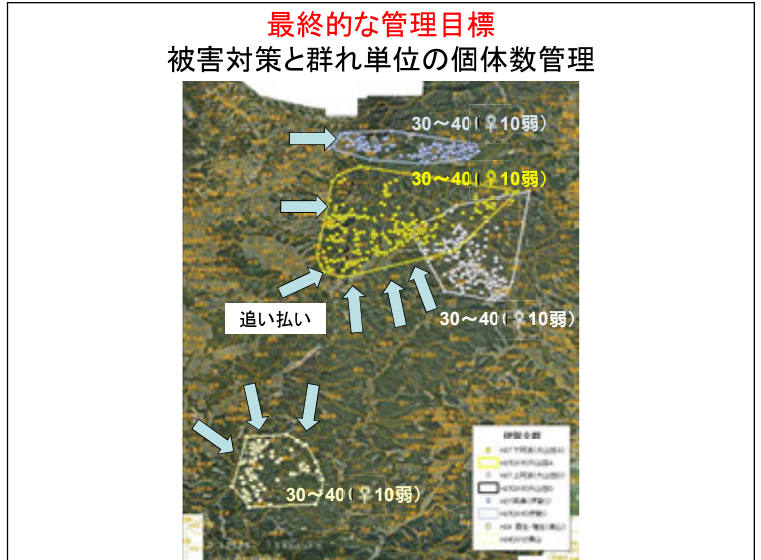
・加害レベル低
・行き場はある
・頭数少
＝モニタリングのみ

・加害レベル中
・頭数少ない
・行き場はある
＝選択的捕獲

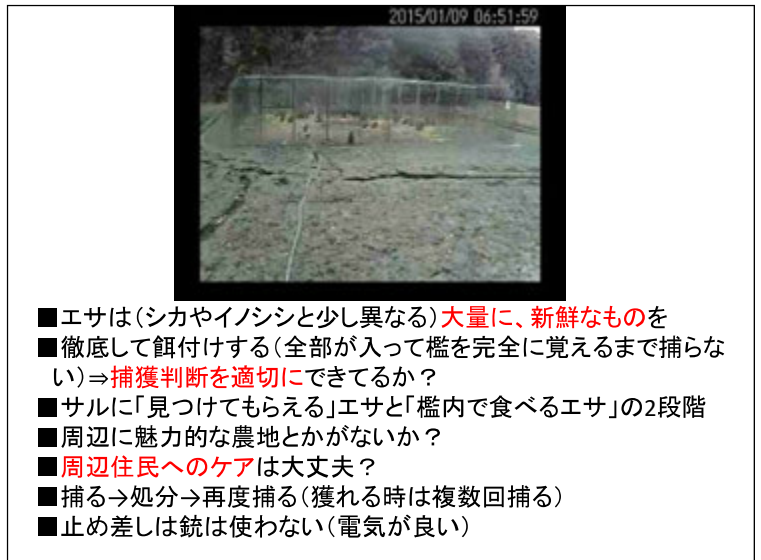
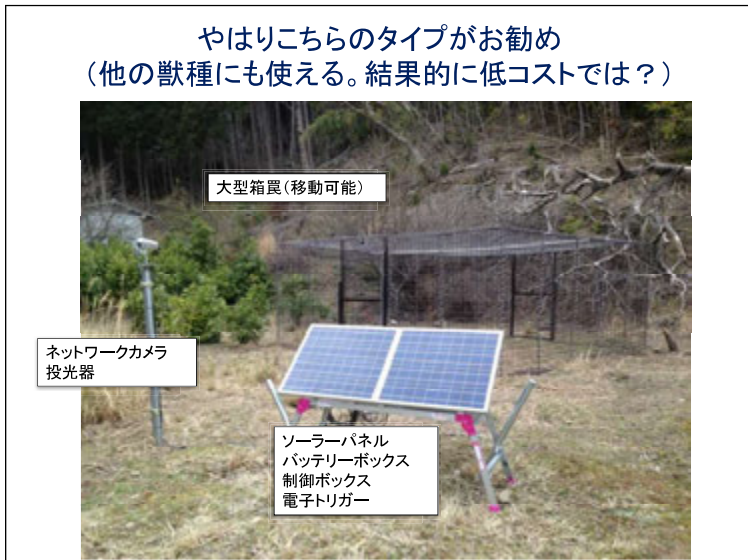
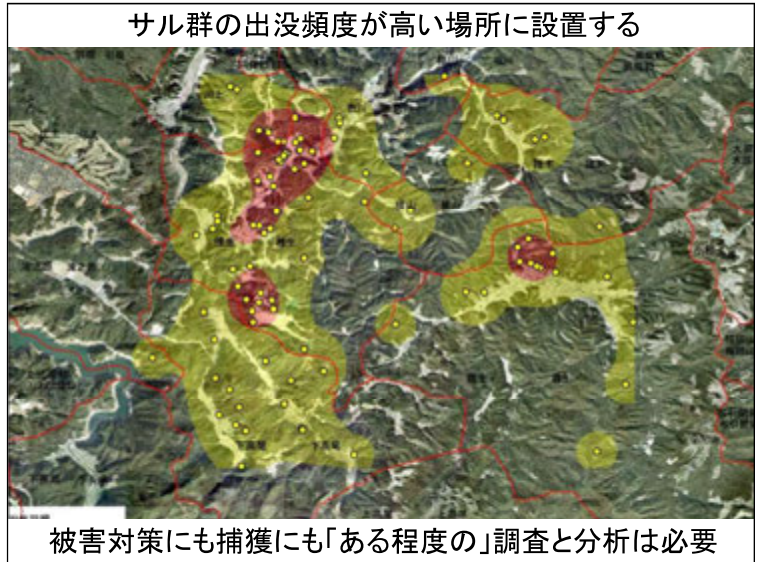
イノシシやシカとは
考え方が異なる
(群れ管理です)



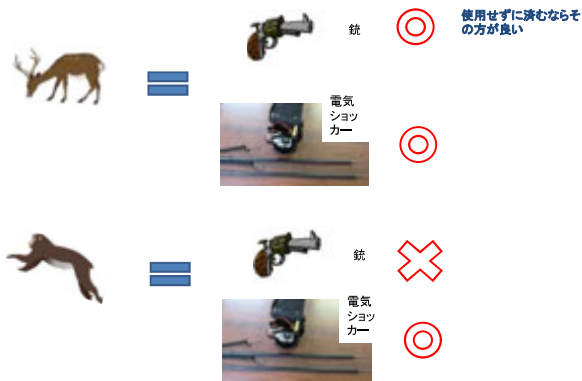
63頭捕獲(130頭の群れを1回で半減。数回で全頭捕獲)



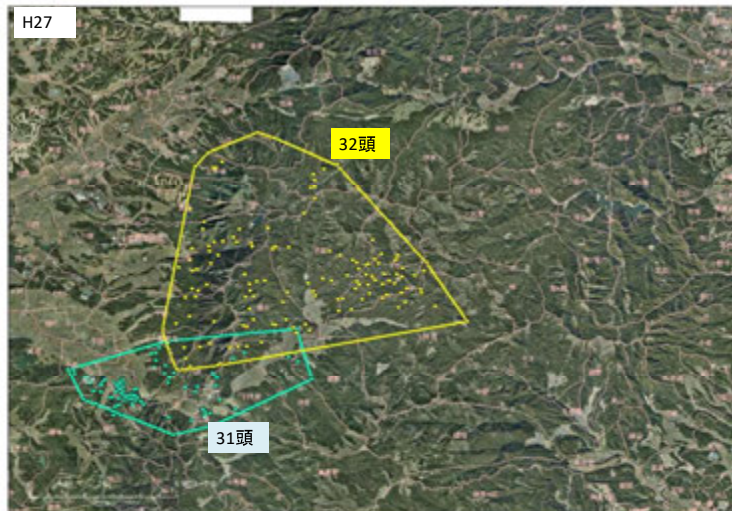
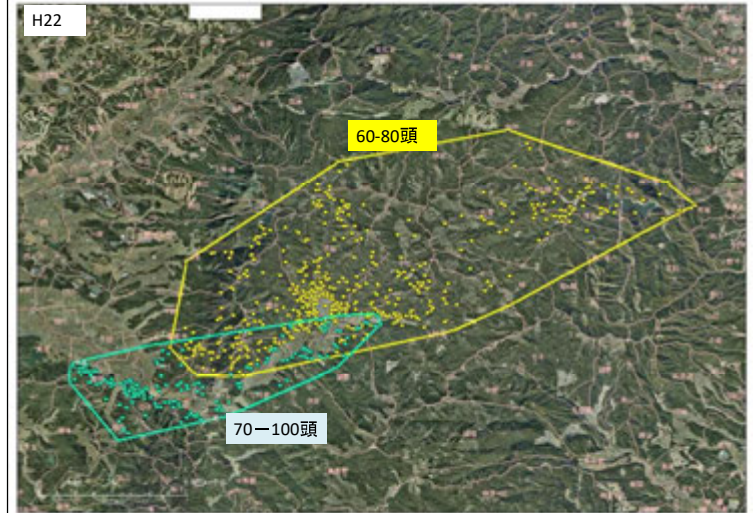
捕獲技術や 場所選定のポイント



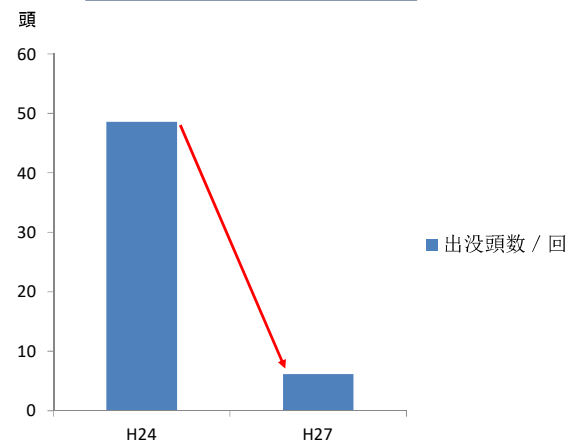
処理時の注意



- 未捕獲の個体に学習させないようにサルは銃器を使用しない。
- 小型檻やポケットネットを組み合わせると処理が効率化できる

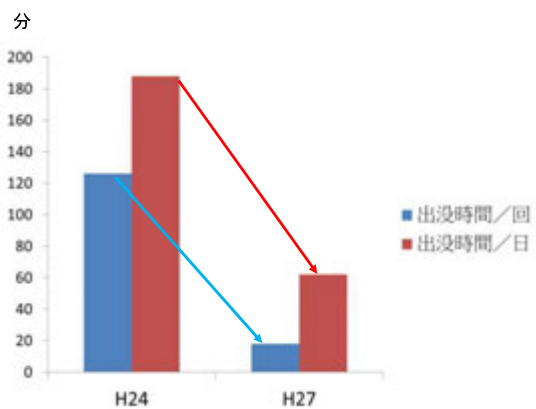


1回あたりの出沒頭数は大幅に低下



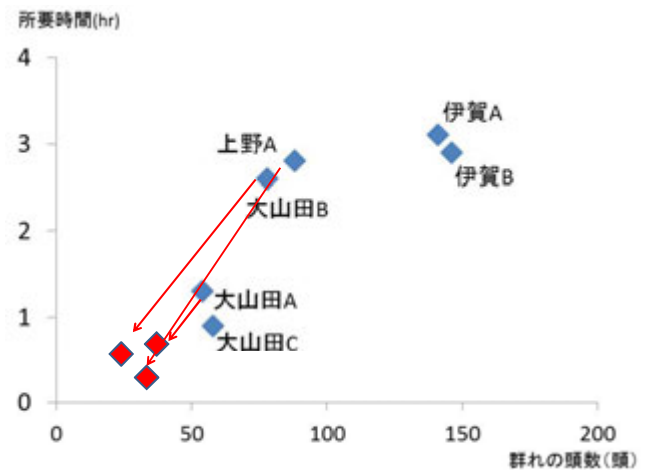
大山田B群 100 → 31

農地や集落での滞在時間は大幅に短縮



大山田B群 100 → 31

追ひ払いの所要時間が大幅に軽減

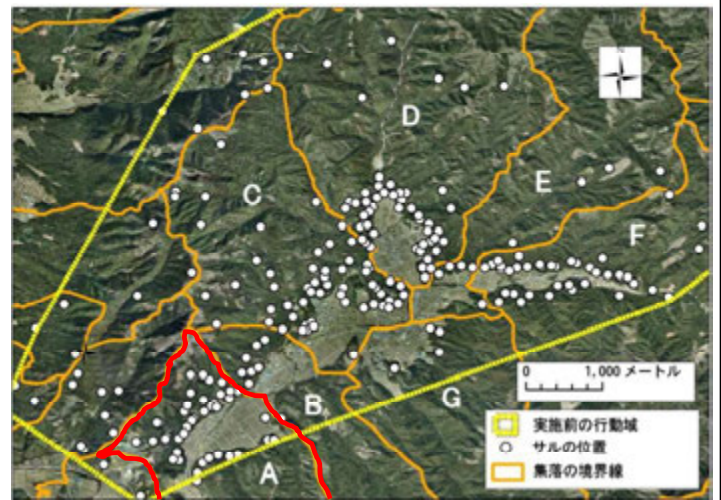


効果的に追い払う

■効果のある追い払いについて

組織的な追い払いによる
サルの被害軽減

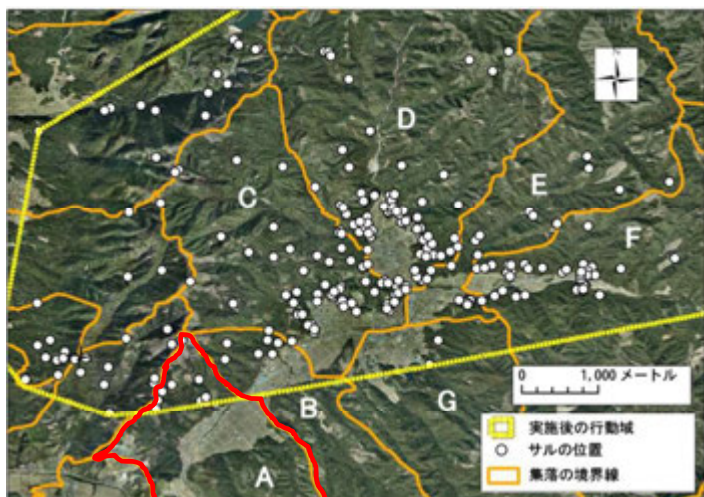
～伊賀市下阿波集落～



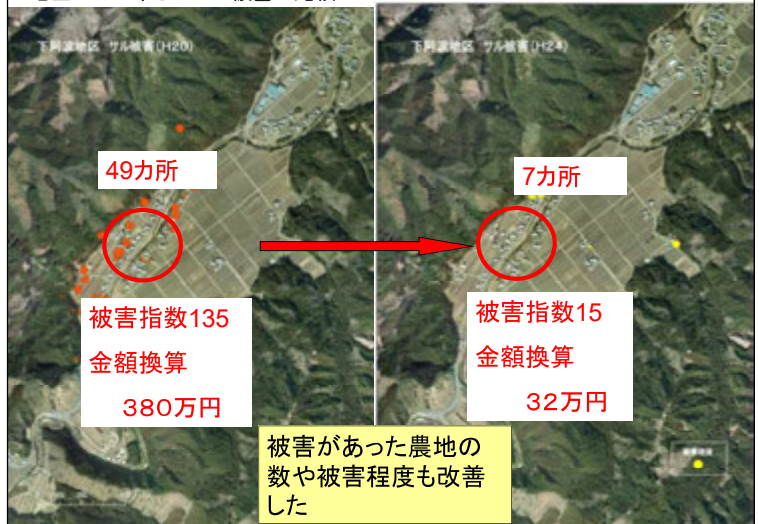
追い払いの研修会



効果が出た追い払いの行動様式

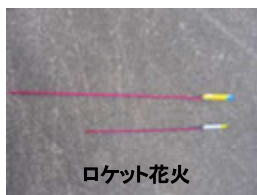


S地区のH19年とH23の被害の比較

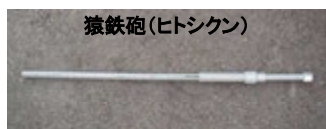


追い払い

追い払いグッズ



ロケット花火



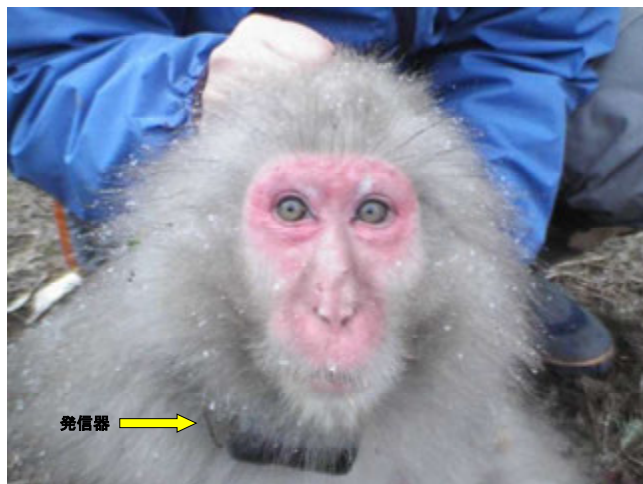
猿鉄砲 (ヒトシケン)



鳥獣駆逐用火火



発信機の活用

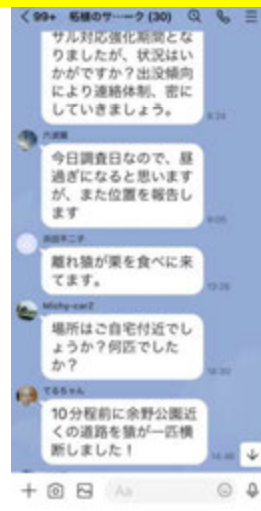


発信器

サル位置情報配信



サル位置情報配信 (位置の配信だけならLINEで良い)



「組織的な追い払い」の考え方

集落を1つの農地と意識し

1. サルを見たときは必ず
2. 集落の誰もが
3. サルが侵入した場所に集まって、複数で
4. サルが集落から出るまで(時には山の中まで)
5. 花火、パチンコ等、サルに向かって飛ぶ威嚇資材を複数使って

追い払う！！

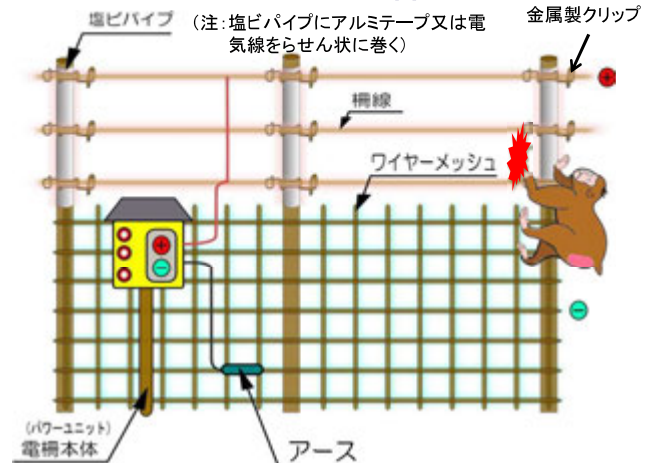


住民自治協議会による「サル見回り隊」

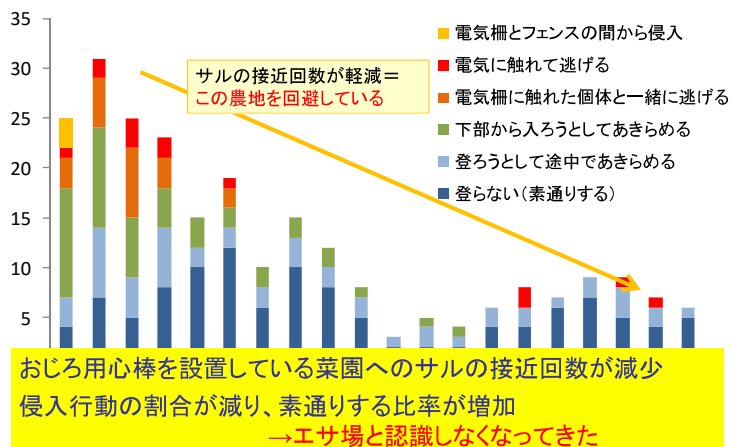
「サルも防げる防護柵は？」 多獣種防護柵「おじろ用心棒」

～三重県農業研究所と兵庫県立大学の共同研究より～

サルにも効果のある電気柵 ～おじろ用心棒～



おじろ用心棒を設置した菜園でのサルの接近状況

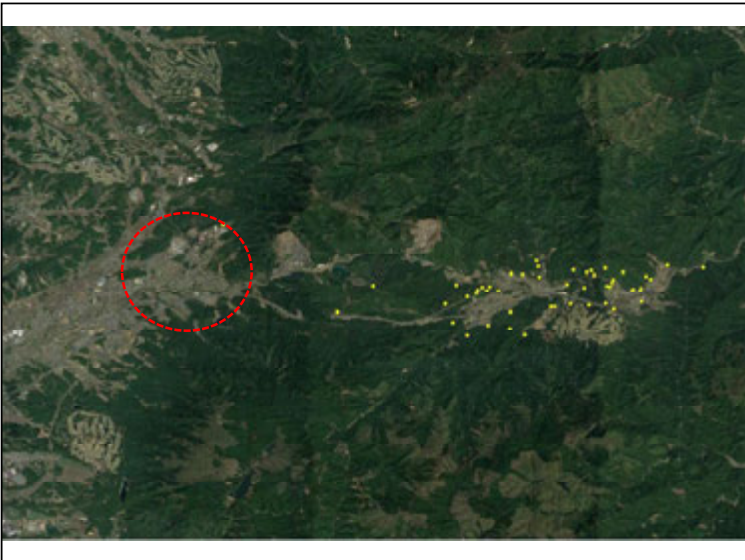


果樹も守れるはず

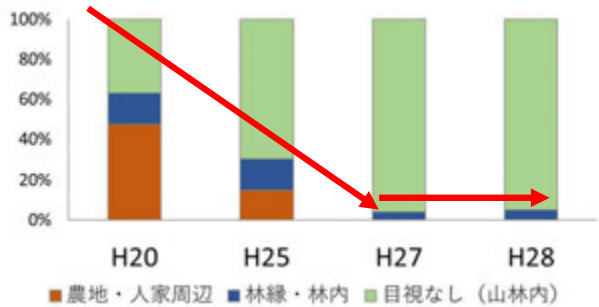


「組織的」な追い払い実施

An aerial photograph of a forested landscape. A red dashed circle highlights a specific area in the upper left quadrant, which contains a dense cluster of yellow markers. Other yellow markers are scattered across the landscape, particularly along a linear feature that runs horizontally across the middle. The terrain is covered in dense green forest, with some cleared areas and roads visible.



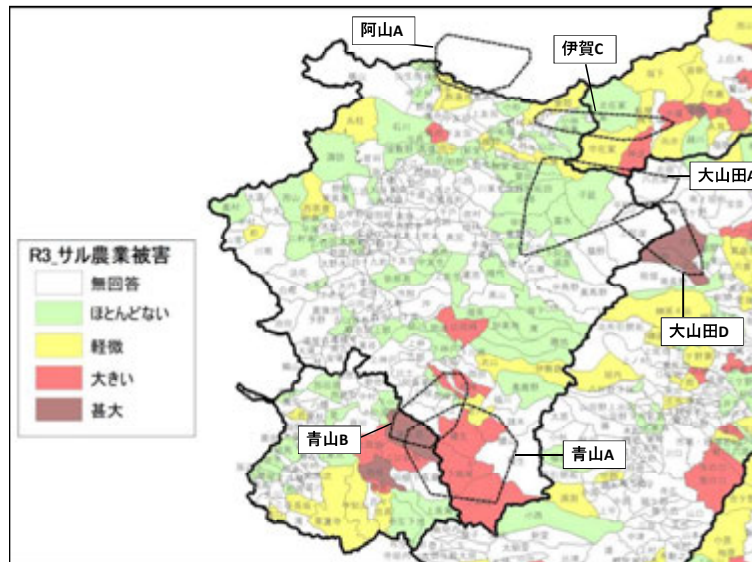
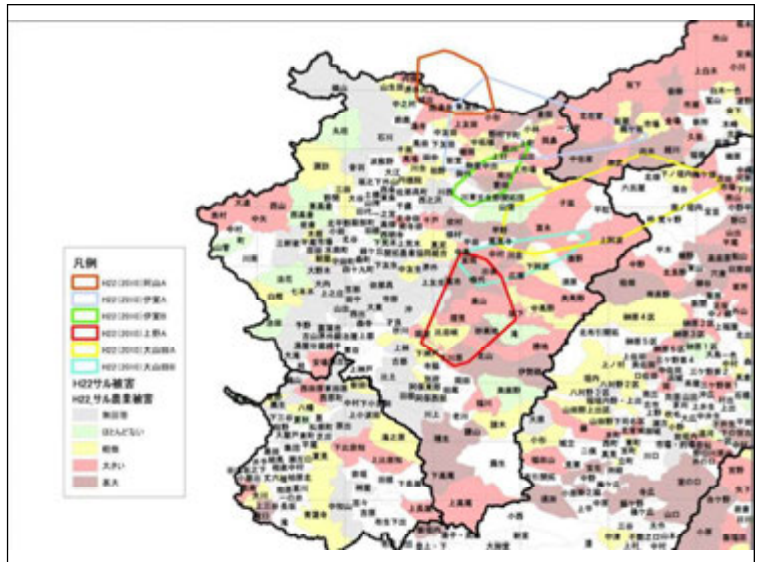
出沒環境の変化



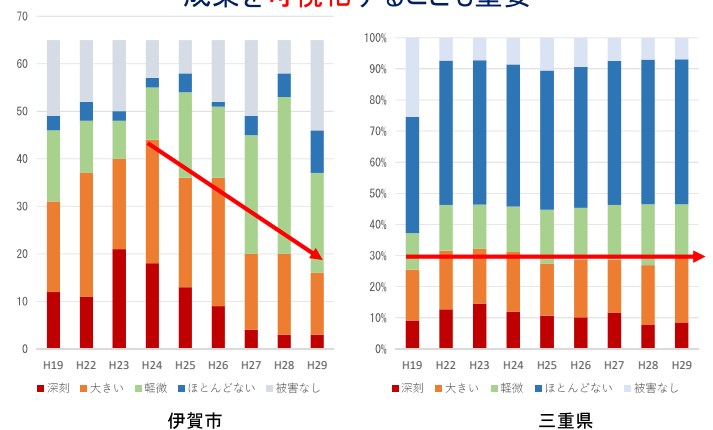
H20 被害対策なし 60頭
H25 広域での被害対策進展 90頭
H27 個体数削減後 32頭

集落への出沒率（林縁を含む目視率）は更に低下し、それを維持

※15回／月、200回／年程度のテレメトリー調査時の目視、利用環境調査より



県全体の傾向と比較すると、差が見える 成果を可視化することも重要



三重県 集落代表者アンケートより



■柿や栗が採れるようになった

■個体数調整と被害対策の結果山で暮らすようになった→感情的でない、冷静な意見の増加

深層インタビューによる集落の意見変化（2019山端）

群れ単位の個体数管理＋地域主体の被害対策 双方両立集落

	H20	H27
サルの出沒は？	●サルの銀座や。毎日でも見るで！ ●追ってもそこで見るとんや。全然逃げよらへん。	●山行っても声は聞くけど、姿は全然。 ●捕獲後は全然来なくなりましたな。
被害は？	■全部食べよらん。明日採ろうと思っとると、よお見とるな。全部かじってく。 ■瓦剥くやろ。あれ。糞がなあ。	■ダントツ減ったわ。うち。■田んぼもやられたけど、今は全然やな。 ■顔見ると逃げるもんな。
サルをどう思う？	●追い払いなんか言うのとらんと、市も県も、もう少し根本的のちゅうもんを考えたくれたらどうす？ ●増えやんように出来やんの？薬とか撒いてさあ。 ●歯あ向いてきますやろ。あれ。追おても怖いですわな。追えやんわなあ。	●まだまだ恨みはあるけどなあ ●悪させんかったら、まあ、かわいいもんやけどなあ ●孫の手前なあ。おじいさんら全部獲るんやとは言えやんわなあ。 ●わしらも鬼とちゃうでなあ。これ以上は獲らんでもなあ。